

研究者氏名：芳金 秀展

調査・活動テーマ：暮らしやすさの視点から見た知多半田駅前再開発の再評価

調査・活動の目的

知多半田駅前の再開発事業を「商業活性」の視点ではなく、「暮らしやすさ」の視点から捉え直すことで、事業を再評価する。

調査や活動の取組内容および達成状況・成果内容

■調査分析

- ・再開発事業（平成 2 年～平成 27 年）の事業前・事業中・事業後のゼンリン住宅地図を用いる。
- ・調査年度
 - 再開発事業開始前 … 平成 3 年
 - 再開発事業途中 … 平成 15 年
 - 再開発事業後 … 平成 27 年

■機能分類と色別処理

- ・住宅地図の建物毎の表記から建物や土地の機能を 9 つに分け、色で識別できるようにする。
- ・建物と土地の 9 つの機能
 - 公共施設・公園・ホテル（宿泊）・高層集合住宅・商店・企業・病院（診療所）・金融（保険）

■再開発事業区域の人口推移調査

- ・市役所が公表している丁目別人口表をもとに人口推移を調査

■分析

- ・年代毎の建物・土地の機能の変遷を人口推移に照らし合わせながら分析を行う。

（未実施）

- ・知多半田駅周辺の住民に定性的で感覚的な「暮らしやすさ」に関するアンケート調査

優れた効果・成果があがった点

知多半田駅前再開発事業の該当区域を建物の機能毎に分析することによって、駅前の機能が「消費地」から「居住地」としての利便性へ変化していったことがわかる。居住地としての視点で見ると知多半田駅前には一定程度の商店の他に病院や公共施設が充実していることがわかる他、各施設には駐車場も併設されていることから、他地区の地域の人々にとっても利用しやすい環境が整っているといえることがわかった。

委嘱期間終了後の今後の展望

市議会議員として半田市民の暮らしを第一に考えるきっかけとなった。今回のように知多半田駅前再開発事業をポジティブに捉え直すことを一般化させながら、市民のシビックプライドを醸成させていきたい。また、そういったポジティブな機運をきっかけに商業面でもさらに発展していけるよう取り組みを行っていきたい。